

福島河川国道事務所は、大正8年11月に内務省阿武隈川改修事務所として発足し、また、仙台河川国道事務所は、昭和16年4月内務省仙台土木出張所名取川改修事務所を母体とし、昭和28年8月に仙台工事事務所と改称し、その後、昭和39年7月に岩沼工事事務所を合併統合し、以来、阿武隈川流域の皆様のお力添えを得ながら、阿武隈川の改修、管理、環境整備に取り組んでまいりました。阿武隈川の変化に富む自然や景観は古くから地域の人々に親しまれ、その流れは、流域内の社会・経済・文化の形成に欠くことのできない重要な役割を果たしてきました。しかし、一方では、過去幾度となく洪水氾濫を引き起こし、当地域に甚大な被害をもたらしました。

そこで、現在は3つの基本理念「安全で安心が持続できる阿武隈川の実現」「豊かで多様な自然環境の次世代への継承」「阿武隈川を軸とした人・自然・社会の調和と活力ある地域の創造」の実現に向けて、河川整備に取り組んでいます。

治水については、平成10年の洪水被害を契機とした「平成の大改修」や浜尾遊水池の整備、崩れにくい強靱な堤防を目指す堤防の質的整備など、安全安心な阿武隈川の実現に向け、阿武隈川とともに生きる、まちづくりと一体となった河川改修事業を実施しています。また、七ヶ宿ダム、三春ダム、摺上川ダムなどの多目的ダム事業により、治水整備はもとより、安定した生活用水の供給にも寄与しております。なお、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により甚大な被害が発生した河口部において、河川管理施設（河川堤防、水門、樋門等）の復旧を鋭意実施しています。

環境については、豊かな河川環境を保持し、後世へとつなげるためにも、既存種の生態系に悪影響を及ぼす外来生物への対策などの取り組みを行っており、地域の協力が欠かせないものとなっております。そのような流域の皆さんの様々なご協力のおかげで、阿武隈川の水質も年々と改善してきており、特に支川である荒川は、平成24年度から26年度まで3年連続で国土交通省が管理する全国の一級河川のうちで水質ランキング1位となることができました。

また、流域の皆さんが阿武隈川により一層親しんでいただけるように、水辺の楽校や桜づつみの整備も進めてまいりました。今後は水辺の賑わいを取り戻すことを目的としたミズベリングプロジェクト*などの水辺の利用促進が全国的にも進められていく中で、地域のみなさんとの連携を深め、阿武隈川に親しむ方々が増えるように手を取り合い、活力ある地域の創造に向けて進んでいきたいと思っております。

今後も引き続き、阿武隈川流域の自然、社会、歴史、文化を踏まえ、安全、安心が持続でき、豊かな自然を次世代へ受け継ぎ、さらには流域の自然と社会が調和した活力ある地域を創造する阿武隈川の整備を目指して参ります。

※ミズベリングプロジェクト

かつての賑わいを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を、創造していくプロジェクトです。

ミズベリングは「水辺+RING（輪）」、「水辺+R（リノベーション）+ING（進行形）」の造語です。



阿武隈川福島県庁付近で散策を楽しむ（ふくしま花ウォーク）

福 島 県

阿武隈川サミットアドバイザー

●取り組みの現状

福島県は、阿武隈川水系の147河川、指定区間（県管理区間）総延長約1,392kmを管理しており、様々な治水対策を実施しております。

阿武隈川水系河川は、住民生活と密着した市街地を通り河川改修の難しい箇所が多く、水害が頻繁に発生するという問題があります。

そのため福島県は、浸水被害を解消するため順次河川改修事業を実施しております。

例えば郡山市においては、昭和61年度より南川放水路（旧安積疎水）の改修事業を進めていましたが、平成14年の台風6号を受け、平成15年度から19年度までの緊急対策特定区間を指定し、改修を完了しました。

また平成18年度からは、三春町の桜川で河川改修事業を実施し、歴史的景観を活かした親水空間を創造しながら、浸水被害の解消を図っています。

このように、地域の個性を活かした川づくりを進めています。

さらに、阿武隈川水系の38河川56地点において、水質汚濁防止法に基づき水質汚濁状況を常時監視するために水質測定を行っています。河川の水質の現状把握をすることによって、水質保全に努めています。

●今後の課題

平成23年に発生した台風15号は、各地に浸水被害をもたらしました。特に、逢瀬川や滑川などの被害が大きい河川については、優先的に河川改修事業を進めています。

また石川町の北須川においては、既設のかんがい専用ダムを改築して治水機能を付与する千五沢ダム再開発事業を、平成34年度からの運用開始に向けて実施中です。この事業でラピンス型洪水吐きと言われる形式へ洪水吐きを改築することにより、石川町の中心市街地の洪水被害を軽減させる効果があります。

一方、河川公園などの親水空間において、除染が手付かずとなっている箇所が多いという問題や、堤防の耐震対策及び水門等の老朽化対策など、対応すべき課題もあります。

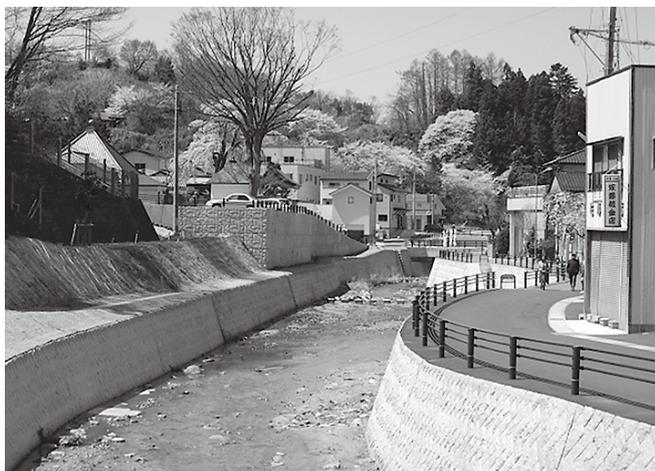
また、河川の水質については、汚濁の大きな原因となっている生活排水を適正に処理することが重要です。阿武隈川水系の大滝根川、広瀬川、釈迦堂川、今出川及び逢瀬川流域を生活排水対策重点地域として指定し、重点的に対策をとることで大きな成果を上げてきました。しかし、未だ一部の河川においては、環境基準を達成していない地域があり、なお一層の対策が求められています。

●未来へのメッセージ

近年、各地で発生しているゲリラ豪雨や、河川計画上の想定を超える降雨に対しては、ハード対策だけで住民の安全を確保することが難しくなっています。

そこで福島県では、河川流域総合情報システム（<http://kaseninf.pref.fukushima.jp/gis/>）により、降雨や河川の水位など、水防団の活動や避難の判断となる情報をHPで提供しています。

また、平成21年度より、「集中豪雨から命を守るプロジェクト事業」として、県民が自らの命を守るため、防災意識の向上と水災害対策の推進を目指した取り組みを行っています。



桜川河川改修事業（三春町）

具体的には、河川での安全な遊び方や水位上昇の危険性を学習する出前講座や、地域自主防災の専門家による防災講習会・図上訓練等の実施、水災害情報図の作成とHPでの公開（<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41045a/mizusaigaijyouhouzu.html>）など、様々な事業に取り組んでいます。

これらの事業は、普段からの地道な活動ではありますが、これを継続していくことで、いざという時に適切な判断と行動が出来る人材を育て、地域防災力の強化につながるものと期待しています。

ハード対策とソフト対策の両方を推進し、「自助・共助・公助」が一体的に図られることを目指して、福島県はこれからも河川事業に取り組み、恵み豊かな阿武隈川を未来へ引き継いで参ります。

白石川でのアドプトプログラムを活用した河川管理

●取り組みの現状

阿武隈川支川の白石川は、宮城県南部を東流する延長約70kmの河川であり、1市4町（白石市、七ヶ宿町、蔵王町、大河原町、柴田町）の市街地を貫流し、沿川の産業発展や住民生活と密接な関係を持っています。特に大河原町、柴田町沿川には「一目千本桜」があり、毎年20万人以上の観光客が関東・関西地区からも訪れる観光名所となっています。古くから桜の名所として有名でしたが、不法投棄や老朽化した看板の放置など、数多くの課題を抱えていました。

こうした問題に取り組み、良好な河川環境を実現する一手法として、行政と地域住民とが協力してワークショップ方式により、問題点の整理や解決策の検討を行うことを目的に、「白石川遊歩道サイン計画」が大河原町、村田町及び柴田町の3町の地域住民により発足した「サイン計画実行委員会」と宮城県大河原土木事務所にのべ17回のワークショップが行われました。

その結果、遊歩道に総合案内サイン（3ヶ所）及び距離標サイン（9ヶ所）の設置を行いました。このワークショップを通じて、互いの立場や考え方の理解が深まり、パートナーシップによる河川管理の実現に向けた基盤が築かれるきっかけとなりました。

「白石川遊歩道サイン計画」は、サイン発表会をもって終了しましたが、その後、ワークショップのメンバーが中心となり、「白石川だいきり倶楽部」という団体が結成されました。

この「白石川だいきり倶楽部」は、「みやぎスマイルリバー・プログラム[※]」の認定を受けました。主な活動は、自分達が苦勞して考え設置したサインを管理することと、また、河川の清掃や美化活動を行うことです。

※みやぎスマイルリバー・プログラム

河川（県が管理する河川）における除草や清掃などの環境美化活動等を行うボランティア団体を、県が「スマイルサポーター」として認定し、県と市町村が支援しながら、住民参加のまちづくりを進める里親制度（アドプトプログラム）の仕組みです



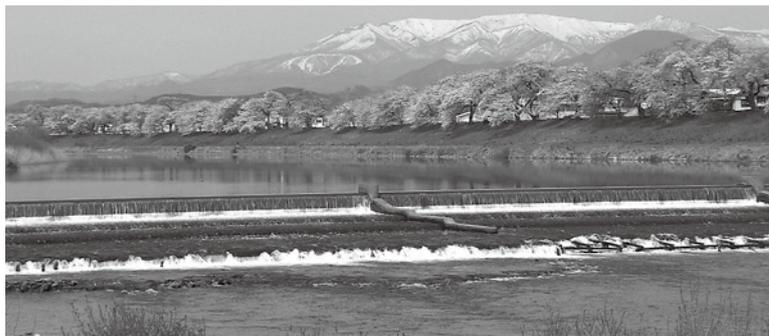
白石川に設置した総合案内サイン

●未来へのメッセージ

今後の取組としては、こうした住民協働の取り組みをさらに進め、河川敷の清掃、設置したサインの補修を実施していきたいと考えています。

また、桜の見頃となる春先に、地域のイベントとタイアップしながら無料休憩所の設置等を実施します。さらに「遊歩道ウォーク」など川に親しみを持っていただくようなイベントを開催していきます。

こうした活動を通じ、今後も地域の人々や来訪者に愛される白石川を維持してほしいと願うとともに、少しずつでも活動の輪が広がり、白石川が持つ価値や魅力を地域の方々と共有していければと考えています。



白石川の一目千本桜